

# オオアワガエリ

*Phleum pratense*

イネ科

## 名前の由来

アワガエリより大きい。アワガエリは果穂の形が粟に似ていることから、粟から復元したという意味。牧草名はチモシー。漢字名：大粟返り（還り）



オオアワガエリの穂。右は花が開き雄しべが見える

## 形態的特徴

高さ60~100cm、根元の1ヵ所から多数の茎が伸びて（株立ち）立ち上がる。葉は長さ30cmほどで平たく細長い。縦方向に走る中央の脈でVの字型に屈曲し、脈上に白色の毛がある。茎の先に淡緑色の小穂を多数、密につけ、全体で長さ5~15cm程度の円柱形の穂状花序になる。

## 生育環境・分布

牧草地で栽培されており、道端や野原、荒地などに広く野生化している。

**分布：**国外分布は、ユーラシア大陸が原産で、世界中の温帯に広く帰化している。タイプ産地は中部ヨーロッパ。国内分布は、日本全土に見られる。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、牧草地で栽培されているほか、道端や草原、荒地などに広く野生化しており、ごく普通に見られる。

## 生活史

開花時期：6~8月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

## 他生物との関わり

不明。

## 興味深い話

■明治初期にチモシーの名で牧草として導入され、全国で栽培された。

■成長が早く、地下茎を広く張り巡らせる性質を利用して、道路法面などの表面侵食防止のために植えられる。各地で

類似種と見分け方：他のイネ科草本。

花の形体で見分けるため、開花時期以外での区別は困難。細長くまっすぐな緑色の円柱状の穂を出しているものは、十勝ではオオアワガエリとってよい。



オオアワガエリ

牧草地から逸出し、雑草化して問題になっている。

■芽生えの緑が美しく、「絹糸草」として観賞用に種子が売られている。花粉は花粉症の原因となっている。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期				■								

## 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「増補 日本イネ科植物図譜」長田武正 平凡社 1993

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「イネ科ノガリヤス 週間朝日百科 植物の世界118」勝山輝男 朝日新聞社 1996

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシ・タカ